

第88回がん対策推進協議会	資料6
令和5年4月28日	

第4期基本計画ロジックモデル の目標と評価の考え方（案）

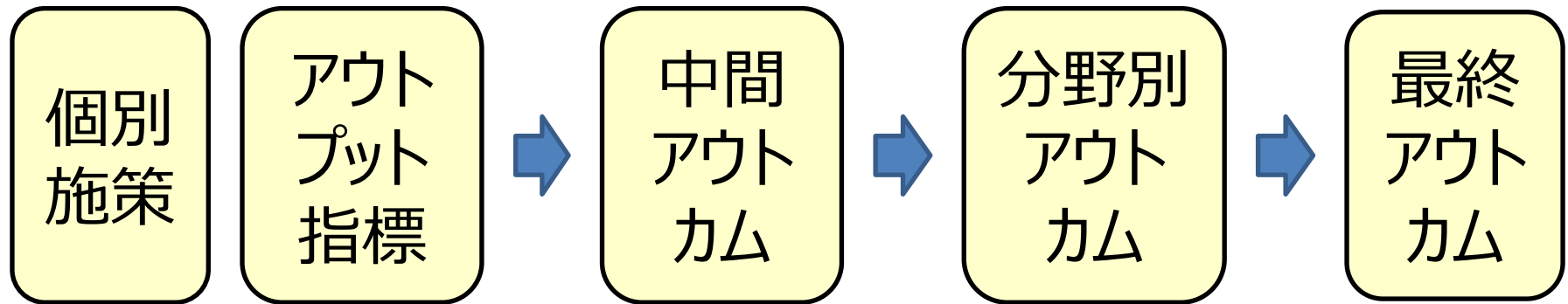
厚生労働科学研究「がん対策推進基本計画における
ロジックモデルの構築・改善に関する研究」

研究代表者 祖父江友孝

ロジックモデル作成の目的

- 構成を図示して、全体像を把握する。
- アウトカムを共通認識として共有する。
- 個別施策とアウトカム（中間、分野別、最終）のつながりを確認することにより、個別施策の適切さを検討する。
- 指標を設定して、評価につなげる。

ロジックモデルの構造



具体的な施策内容
と施策の直接成果

対象者に起こった変化

- アウトプットとアウトカムが区別しにくいこともある
- 各アウトカムに指標を設定
- 個別施策ごとにアウトプット指標を設定
- 幾つかの個別施策で共通のアウトカム
- 分野ごとに特有のアウトカム
- 対策全体のアウトカム

指標について

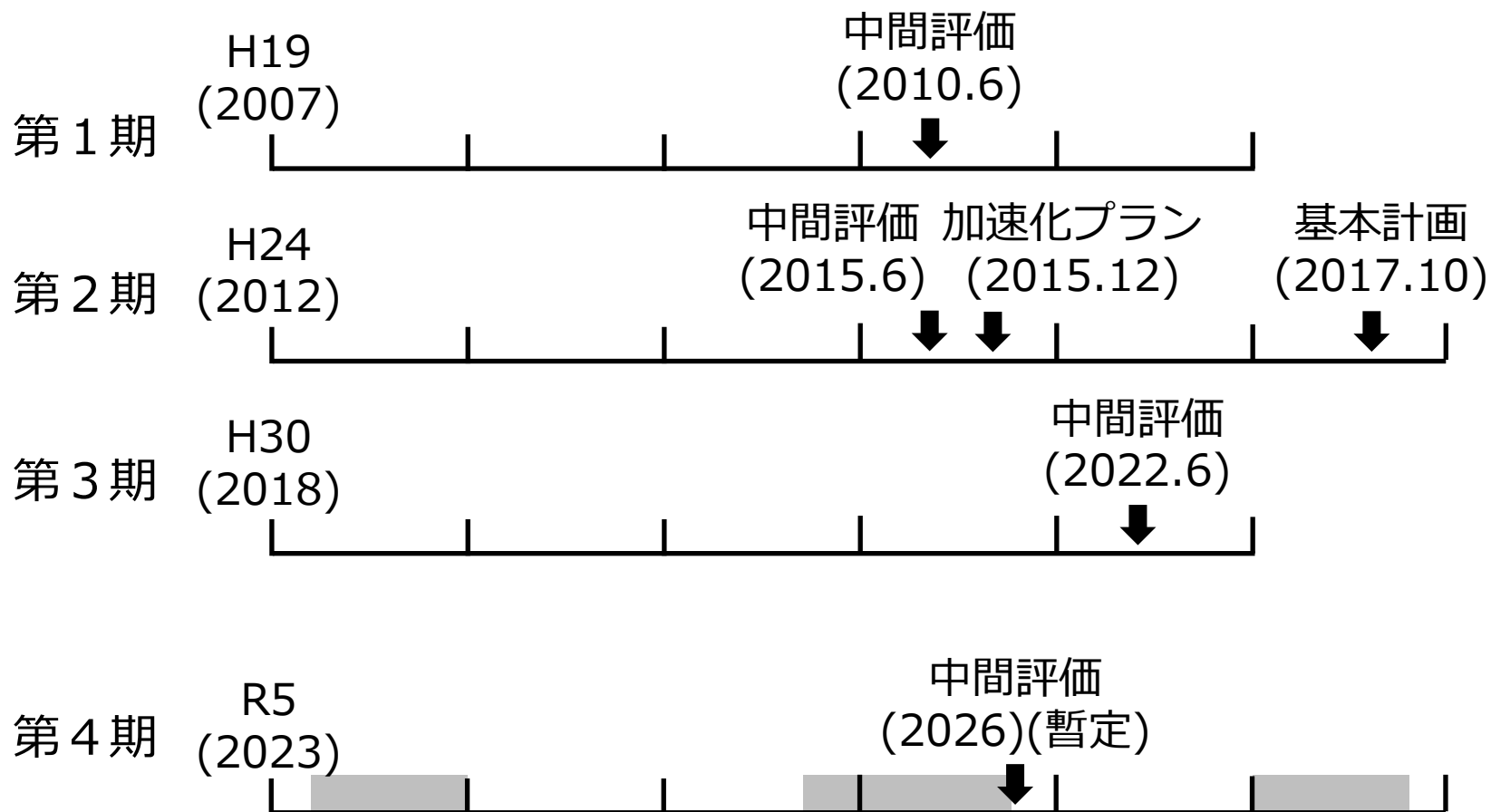
- 指標は、公開されたデータソースがあり、適切な目標値の設定と評価が可能なものを中心に検討する。

指標のデータソース

- 通常指標（死亡率、罹患率、喫煙率、検診受診率）
 - がん登録（全国がん登録、院内がん登録全国集計等）
 - その他の既存統計
人口動態統計、国民健康・栄養調査、地域保健・健康増進事業報告、国民生活基礎調査等
- 患者体験指標（満足度、痛み、不安）
【Patient Reported Outcome (PRO)】
 - 患者体験調査
 - 遺族調査

- 都道府県単位で評価ができる指標が望ましい。
- 必要に応じて、格差を検討する（地域、施設、特性別）。
- 全体の指標数について、管理可能な数にとどめる。

基本計画策定・中間評価のスケジュール



■ 指標の値測定作業（データの収集・集計・分析）実施予定期間

評価の考え方（案）①

● 評価タイミング（想定）：

- 概ね3年後を目途に中間評価を実施
- 最終年度（令和10年度）を目途に最終評価を実施

● 評価の方法

- 計画期間における個別施策の効果を測るため、アウトプット・アウトカムの指標についてベースライン値と最新値を比較する
 - ✓ 改善、不変、悪化等、変化の方向を評価
（目標値がある場合、達成したかどうかも評価）
 - ✓ 必要に応じ、性・年齢、がん種別に評価
 - ✓ アウトプット・アウトカムの時間的ずれも考慮
 - ✓ 分析上の課題や関連するデータの動向も踏まえて総合的に分析
 - ✓ 地域や医療機関、各種社会経済的要因などの差については、厚生労働科学研究「がん対策における格差の要因の解明及び評価手法の確立に資する研究」と連携して対応

評価の考え方（案）②

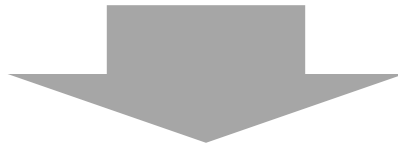
- ベースライン値：

- 計画開始時点（令和5年4月1日時点）で収集可能な最新値
 - ✓ 新規データソースが必要なものは第4期開始時点に最も近い値を採用する
 - ✓ 第3期中間評価報告書時点での最新値も考慮する

各指標の目標値設定の考え方（案）

基本的な考え方

- ロジックモデルを活用して設定された各指標は、計画期間における諸活動の進捗状況のモニタリングのため利用する。
- 目標値が明確化されているものは、評価を行う時点での到達状況の確認に利用する。



当面（第4期開始時点）における対応

- 設定する根拠が明確なものは、指標に対して数値目標を設定することとしてはどうか。
- その他、設定する根拠が明確でないものは、目標値の設定は行わず、中間評価で再度検討してはどうか。
- 数値目標を設定する指標は「管理可能な数」にとどめることとしてはどうか。

ロジックモデルを活用したPDCA

- 基本計画で定められた分野別目標及び個別目標の達成状況の把握のため、進捗状況を適切に把握し管理するため、3年を目途に中間評価を実施
- その際、各分野の取り組み施策が、各目標の効果をもたらしているか、ロジックモデルにおけるアウトプット・アウトカム指標を活用した科学的・総合的な評価を実施
- 必要に応じて、評価結果を施策に反映
 - 現状においては、国レベルの評価結果を都道府県や拠点病院等が実施する施策に直接・即座に反映させることは困難な場合が多い
 - 国と都道府県及び都道府県間の評価結果の共有を進める
 - 医療分野においては、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会やPDCAフォーラムを活用
- 各目標の達成状況及び計画の進捗状況の把握にあたって、適切な指標が設定されているか、必要に応じて見直し

今後の進め方（案）

- ～令和5年7月頃（次回の協議会で検討予定）
 - ロジックモデル・指標の確定
 - 各指標の定義（測定方法）と目標の整理

- ～令和5年度内（令和6年3月頃）
 - 順次ベースライン値の測定を開始